



## 認定NPO法人 病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア 倫理綱領

遊びは命、子どもの権利です。私たちは「キッズファースト」の理念にもとづき、病気になっても子どもたちが日常生活に出来るだけ近い形で過ごせるよう遊びで応援します。そのため性別を問わず保育士・教師・ピアノ教師・造形作家・学生・母親・会社員など多様な人たちが活動できるようコーディネートします。付き添いの家族に安心と休息を提供し、病院に市民の風を運ぶようにつとめます。

### ○（遊びの権利の尊重—多様な遊びの提供）

年齢、性別、趣味、病状に即して1人1人の子どもの育ちと発達を大切に、多様な遊びを提供できるようつとめます。

### ○（付き添いの親へレスパイトケアの提供）

私たちは付き添いの方が安心して病室を離れ、自分の用事ができるように応援します。

### ○（プライバシーの保護）

活動を通して知り得た患者家族の情報や秘密を守ります。活動の意義を社会に伝えるときは、子どもや家族の同意を得ます。

### ○（差別の禁止）

子どもの国籍・年齢・障害の有無で差別をしません。どの子にも公平に接します。

### ○（ボランティアの自主性）

社会的に意義ある活動に参加していることに誇りを持ち、自分の意思で活動に参加します。

### ○（病院や社会との連携）

病院と医療スタッフとの連携を大切にします。また行政や大学、他の関係機関や企業など、社会とのつながりを大切にします。

### ○（ボランティアの質の向上と普及啓発）

他のボランティア活動にも目を向け、交流の機会、情報の共有をし、自己研鑽に務め、全国遊びのボランティアネットワークの普及に努めます。

### ○（社会への働きかけ）

患者家族の困難やニーズを知ったときは受け流さず、医療スタッフに伝えるなど、問題解決、改善のため働きかけます。

### ○（信頼と安全な活動のために）

治療行為には関りません。安全には十分な注意をはらいます。感染を持ち込まず罹患を予防し、健康な状態で活動します。来たり来なかつたりするボランティアが信頼を無くすことを自覚し、自分の活動日には責任をもって行動します。

### ○（切れ目のないケアのために—退院後の支援）

小児がんなど退院後も療養の必要な子どもたちには在宅や地域におけるレクリエーションなどの機会を提供し、出会いの場や交流の機会を大切に、切れ目のない支援を目指します。